

都道府県技師会における公益目的事業 ①

投稿

神奈川県臨床衛生検査技師会 恒例の

神奈川県の最高気温が 33 度を記録した 8 月 5 日、370 万人の人口を擁する横浜市の商業中心地、横浜駅東口そごう前の新都市プラザにおいて、今年も恒例の横浜 AIDS 市民活動センター主催による STD 街頭キャンペーンが開催された。

横浜 AIDS 市民活動センターは、横浜市の直営機関で、HIV の啓発活動を中心に資料の貸し出し、リーフレットの作成、STD 講演依頼の窓口、電話相談、無料 HIV 夜間検査、他の NPO 団体の活動拠点として横浜市役所に程近いところのビルのワンフロアにある。昨年 10 月に、神奈川県臨床衛生検査技師会は、横浜 AIDS 市民活動センターの管理運営をプロポーザル方式により受託した。

この日は横浜 AIDS 市民活動センターの行事としての STD 街頭キャンペーンに神奈川県臨床衛生検査技師会が後援という形で協力した。



では過去に幾度となく行っているが、キャンペーンを実施するにあたって人員の確保が最大の課題である。

米坂知昭会長は今年度の就任挨拶の中で「全員参加型のパワー溢れる公益性の高い事業展開を行ってゆく」と挨拶した。その趣旨に多くの会員が賛同したのか、今回は 47 名もの協力者を得ることが出来た。このような大規模なイベントでは要員確保の成否が成功を左右することとなる。

当日は 8 時 30 分に県内各地より実行委員が集合し、折りたたみ机、折りたたみ椅子、パネル掲示用のヴァンテアンを会場の倉庫より運び出し、駐車場からは運送業者によって運ばれた横浜 AIDS 市民活動センターからの荷物も同時に運び込み、会場の設営・準備を参加者全員で冷房設備のない通路で噴き出す汗も気にせず、手際よく行った。

キャンペーンの開催時間は 10:00~14:30、その実施内容は次の 7 項目である。

① リーフレット・うちわ配布

横浜 AIDS 市民活動センターにある HIV 啓発パンフレット、施設紹介パンフレット、配布用あぶら取り紙、キャンディーを袋詰めにしたものを 2,000 部配布した。うちは台風 4 号の影響で中止となった花火大会のものを横浜 AIDS 市民活動センター推進委員会のメンバーである横浜商工会議所よりいただいたものを 4,000 枚配布した。当日の猛暑では配布物での一番のヒットはこのうちわであった。

② アンケート調査

横浜 AIDS 市民活動センターの今後の事業展開を行う上で一般市民の性行為感染症の意識調査と横浜 AIDS 市民活動センターの業務内容に関するアンケート調査を 500 人に回答していただいた。

③ ポスター掲示

HIV 啓発と日本臨床衛生検査技師会より借用した生活習慣病関連ポスターの掲示を行った。

④ 自己血糖測定

神奈川県技師会生活習慣病撲滅委員会のメンバーによる自己血糖の測定と糖尿病療養指導士による結果の解釈を実施した。健康志向の高まりから 620 人の市民が測定を希望した。

⑤ 医師による相談窓口の開設

HIV に関する相談窓口を開設し、血糖測定値の高い市民は医師に直接相談ができるようにした。HIV に関する相談は無かったが、血糖に関する相談は 3 件ほどあった。

⑥ コンドームケースの展示・配布

HIV 感染にはコンドームが最も効果があるためコンドームの無料配布とコンドームを入れるハードケースを 200 個配布した。

⑦ 風船配布

横浜 AIDS 市民活動センターにはコンドームをデザインしたマスコットの「コムちゃん」があり、その着ぐるみで親子連れに風船を配るのが恒例となっている。

バルンアートパフォーマンスよろしくイヌ、キリンなどを手際よく作る会員もいた。気温 33 度のなか、着ぐるみを着ての風船配布は暑さと戦いであり過酷なものであった。

